カトリック山手教会月報

やまて

編集・発行　カトリック山手教会 広報委員会　〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎（045）641－0735　http://catholicyamate.org/
第667号　2025年9月14日

聖母被昇天ミサ

８月15日（木）10時30分から、聖母の被昇天ミサがミカエル鈴木真主任司祭主司式、教区副事務局長・アシジのフランシスコ牧山善彦師との共同司式で執り行われました。

ウィークデーにもかかわらず多くの信徒が参加し、共同祈願では①被昇天の恵みにあずかったマリアの信仰にならい、わたしたちが苦しむ人、悲しむ人とのきずなのうちに天の国を目指すことができますように②聖母マリアは、母として御子（おんこ）の苦難をともに耐え、救いの“みわざ”をともに担われました。わたしたちが日頃の信仰生活で、このことを常に思い起こし、聖母にならい、平和を実現することができますように―と唱えました。

最後に「平和を願う祈り～アシジの聖フランシスコの祈りより～」を全員で心を合わせて唱えました。

鈴木 真師の説教

ルカ福音書　第1章39～56節

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。」…マリアの賛歌、通称「マニフィカト」と呼ばれる箇所です。「マニフィカト」とは、ラテン語で「あがめる」という意味で、ラテン語訳の聖書のこの箇所がその言葉から始まることから、こう呼ばれるようになりました。多くの音楽家が、この箇所を楽曲にしています。

「今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう。」この箇所に触れるたびに、すごい言葉だなぁと思います。どのような時代であっても、人々はマリアを「幸いな者」と呼ぶ、というのですから。ただし、この「幸い」とは、わたしたちが単純に考える「幸せ・幸福」とは違います。マリアの生涯を思い起こす時、それは明らかでしょう。この「幸い」とは神さまの目から見た「幸い」、そして、それは神さまからの「祝福」とも関係するもの、と言われます。神の祝福とは「神さまの喜び」。つまり、その人の存在そのものが、神さまにとっての「喜び」であることを意味します。

マリアが「幸いな者」と言われるその理由が、次の行で表されます。

「力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。」要するに、マリアに神さまのわざが臨んだことが「幸い」だ、というわけです。

そして、ここでふと思います。わたしたちにも、マリアに臨んだ同じ聖霊の力が注がれている。わたしたちにも、いつも神さまのわざが臨んでいる、と。つまり、マリアの「幸い」に触れる時、わたしたちにも、臨んでいる神さまのわざに気づく、しかも、それが神さまの「喜び」であることを悟る、ということでしょう。そして、それはマリアにとってもそうだったように、わたしたちにとっても必ずしも都合のいいことであるとは限りません。時には、痛み、苦しみを伴うものでもあるでしょう。

しかし、その「わざ」を通して、神さまは多くの人を救いへと導いていてくださいます。だからこそ、マ

リアはそのすべてを受け止めました。教会が聖母マリアに特別な尊敬を持つ理由は、ここにあります。

聖母の祝日に、その取り次ぎを願いつつ、わたしたちもまたマリアのように、神さまのわざをすべて受け止めることができますよう、共に祈りたいと思います。

感謝の祭儀